

SME日本支部 創立55周年を祝して



青山 藤詞郎

公益社団法人 精密工学会
会長
(慶應義塾常任理事)

SME日本支部創立55周年をお祝いして

SME日本支部が創立55周年を迎えられたたましたこと、心よりお祝い申し上げます。

SME日本支部の前身にあたるSME東京支部は、米国にその本拠地を置く Society of Manufacturing Engineers (SME) の日本における唯一の支部として、1962年に開設されました。以後、55年間の長きにわたり、ものづくり技術に携わる技術者のリーダーシップにより、アカデミアとの連携のもとに、今日まで発展の路を歩まれてきました。ここに、歴代支部長をはじめ、顧問、役員、委員会委員、事務局の皆様のこれまでの献身的なご尽力に、あらためて敬意を表する次第でございます。

SME東京支部として創立50周年を迎えられてから今日までの5年間のあいだに、ものづくり技術をとるまく社会環境には、世界的に見て大きな変化を見ることができます。ドイツを中心にして提唱された第4次産業革命としての Industry4.0 の構想は、ものづくりに関する各プロセスへのIoTの積極的な導入による、工場形態の改革を含めた新たなものづくり技術と関連するビジネスのグローバル化に対する今後の方向性を示したもので、産業界における様々な形での対応が進められています。また、最近、英国から発信された2040年以降の自動車の完全電気駆動化への切り替えについては、その実現可能性についての様々な議論があるものの、世界の自動車メーカーにおける電気自動車の開発に拍車かかっています。また同時に、自動車運転の完全自動化へむけての技術開発競争も本格的なものが認められ、自動車産業に関するものづくり技術の変革と、今後の自動車ユーザの形態の変化が予想されています。このような、ものづくり技術そのものと、これをとり巻くマーケットの変化をしっかりととらえ、それらに対応したものづくり技術の変革を着実に進めていく時代にあると思われまます。

このような時代において、ものづくり活動をとるまく社会システムの変革をとらえながら、産業界とアカデミアのより強力な連携のもとに、新しいものづくり技術をハードウェアとソフトウェアの両面から提案し、これを実現していくことが望まれています。精密工学会は、ものづくりに関わる科学技術の発展の一翼を担う学術団体の一つとして、将来のものづくり技術の発展に資する新たな科学技術の創造と、将来を担う、科学者・技術者の育成に貢献してまいります。SME日本支部の様々な活動と連携をはかり、産業界と学会の交流を進めることによって、今後も協働して我が国の、そして世界のものづくり技術の発展に貢献してまいりたいと思います。

今後、SME日本支部が益々発展されますことを祈念申し上げます。

SME日本支部 創立55周年を祝して



新野 秀憲

国際生産工学アカデミー
(CIRP) 国内委員会委員長
(東京工業大学 教授)

SME 日本支部創立 55 周年に寄せて

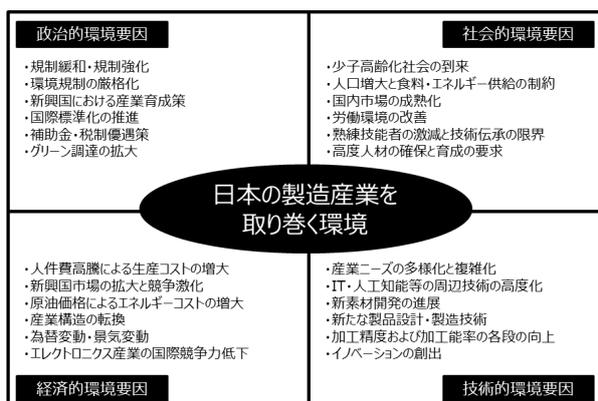
この度は、SME 日本支部が創立 55 周年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。国際生産工学アカデミー (International Academy for Production Engineering, CIRP) 国内委員会を代表して、心よりお祝いを申し上げます。1962 年の創立以来、時代の変遷に伴い製造環境が急速に変化する中、SME の下部組織として重要な役割を担うと共に日本の製造産業の発展に貢献されてきたことに敬意を表させていただきます。

現在、日本の製造産業を取り巻く環境は、図に示すように政治的環境要因、経済的環境要因、社会的環境要因、ならびに技術的環境要因によって特徴付けられます。今後、それらの環境要因の相互影響下

で、変革を生じながら発展していくと考えられます。すなわち、少子高齢化の進展する中、持続的、かつ高い経済的成長を達成するためには、様々な製造産業部門においてイノベーションの創出が求められます。急速に進展するグローバル化に対応するため、国際競争力を強化することも重要になります。一方、環境・エネルギー問題、人口・食糧問題など、地球規模で解決すべき

課題は山積したままであり、それらの課題解決には、単独の学協会組織では到底対応できません。国内外の経済社会情勢が大きく変貌する環境下では、国際的なネットワークの構築により、課題解決を図ることが有用と考えられることから、SME 日本支部の担う役割は従来に増して重要になります。私共の CIRP 国内委員会では、生産工学領域における学術・技術の確立、関連する国際共同研究、最新の研究・技術情報の交流、人材の確保と育成などを推進しています。それらの活動の多くは、SME 日本支部における活動にも共通しています。今後、両者の緊密な連携とそれぞれの組織が有する機能の相互補完により、日本の製造産業の国際競争力強化に大きく貢献できると私は信じています。

最後に、SME 日本支部および会員の皆様のご功績に敬意を表しますと共に、今後の益々のご発展とご活躍を祈念いたします。



SME日本支部 創立55周年を祝して



北出 真太郎

一般社団法人 日本機械学会
生産加工・工作機械部門
部門長

SME 日本支部 55周年記念に寄せて

創立55周年記念をお迎えるの由、謹んでお祝い申し上げます。55周年を機にSME東京支部からSME日本支部へ改称され、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。一般社団法人日本機械学会生産加工・工作機械部門を代表して、僭越ながら祝辞をお送りします。

1962年の発足以来、55年の永きにわたり活発な活動を継続されてきたことには尊敬の念に堪えません。高度成長の真ただ中の発足以降、安定成長、オイルショック、日米貿易摩擦、バブル崩壊、そしてグローバル化と絶え間ない変化の中で、ものづくり現場を支える生産技術者にフォーカスされ、その活動を支えてられました。産業界とアカデミアの隔てのない一貫した活動は、多くの生産技術者の育成とレベルアップ、地位向上や意識向上などに結実していると考えます。続く55年間も変わらないご活動と貴支部の興隆をお祈り申し上げます。

さて、最近のデジタル技術の進展には目を見張るものがあります。IoTを初めとしてあらゆるものからデータが収集され、蓄積、分析、活用される状況にあります。AI技術も急速に進展しており、人類が人工知能と融合するシンギュラリティが2045年ごろに訪れるとの予言もあります。シンギュラリティはともかくとして（シンギュラリティには賛否あるようです）、28年後の2045年にはあらゆるものがデジタルデータ化され活用されていることは疑いようがありません。デジタル化の中でヒトの役割はどのようになっているのでしょうか。ものづくりを支える生産技術者はどのような能力を発揮してどのような仕事ぶりでしょうか。一人に一台のコンピューターも持てなかった時代に学生だった私には、この先どのような変化があるか想像できません。

SME日本支部が100周年をお迎えになるのは2062年。シンギュラリティ説によれば、人間の思考や考察を超えるレベルとスピードを人工知能が請け負っていることとなります。そうではないとしても、現代からは想像もつかないほどのデジタル化が進んでいることでしょう。その中でもSME日本支部は、時代の流れを取り込みながら引き続き生産技術を支えておられると信じて疑いません。加えて、全米各州および20カ国に支部を持つSMEの一員でおられることは、第四次産業革命とも言われるこれからの時代に格段の強みを発揮するのではないかと考えます。私ども生産加工・工作機械部門も「ものづくりを科学する」を合言葉に、貴支部とも足並みをそろえてデジタル変革時代に挑んでいきたいと思えます。

SME日本支部、およびSMEのますますのご発展を期待しますと共に、私どもとの連携、協働もこれまで以上に進めさせていただきたく存じます。創立55周年、重ねてお祝い申し上げます。

SME日本支部 創立55周年を祝して



飯村 幸生

一般社団法人日本工作機械工業会
会長

SME日本支部 創立55周年を祝して

この度、SME日本支部が、創立55周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

SME日本支部は、機械、電気分野のみならず、品質管理、経営工学、安全衛生等、多方面の分野から生産技術者としての要求される知識を問うCMfg-T試験、更に高度な専門技術者としての幅広い知識を問うCMfg-E試験を実施され、これまで製造業を中心にさまざまな分野へ1400名を超える資格認定者を輩出してこられました。

同試験は、世界各地で同一内容、同一基準の下で実施されていることから、グローバル化が進む世界の工作機械をはじめとする製造業の中で、その意義は、今後も益々重要なものとなっていくものと考えられます。

また、SME日本支部の活動は、基本的にボランティアで運営されているとお聞きしており、支部長、顧問、委員長、事務局の皆様方のご努力に深く敬意を表すものです。

世界の市場では、中国やASEAN等の新興国の躍進が目覚ましく、わが国製造業には、更なる国際競争力強化が求められております。持続的な成長のためには、他国との差別化を図り、生産性の向上を追求しながら、高付加価値の製品・サービスを提供し続けることが重要となります。今もなお、日本が世界の製造業を牽引する立場にいることは、各企業に高度な技術開発を行う優秀な生産技術者が多く存在していることに他なりません。

今後も製造業が、日本の基幹産業としてあり続けるためには、優秀な生産技術者を確保・育成して行くことがこれまで以上に重要な課題となっております。

現在、世界の製造業は新たな変革期を迎えております。ドイツが提唱する「Industrie 4.0」は、スマートマニュファクチャリングに向けた大きな潮流の変化になるものと考えられ、アメリカでは、産業機器とインターネットをつなぎ、ビッグデータを活用した「Industrial Internet」を提唱、推進しております。

日本においては、経済産業省が中心となり、様々な繋がりにより新たな付加価値が創出される産業社会構想「Connected Industries」が提唱され、人と機械・システムの協調によるデジタル社会の実現を目指しております。

このように世界の製造業を取り巻く環境が大きく変わろうとする中、生産技術者に求められる技術は、更に高度で広範囲なものとなって行くものと思われ、「技術者のパスポート」と言われる認定試験を実施するSME日本支部の役割が大いに期待されるところです。

創立55周年を一つの節目として、次の時代に向けて、SME日本支部が益々活発に諸活動を展開され、発展されますよう心からお祈り申し上げます。